

札幌西・手稲健康友の会ニュース

ていねやま

発行所：札幌西・手稲健康友の会
札幌市西区西町北19丁目勤医協西区病院内
直通666-2877 (FAX兼用)
発行責任者 坂野 悠紀子
友の会員数 12,300人 (10月現在)

西区病院・介護医療院『ぽぽらす』開院



「ぽぽらす」とは、ユーカリの種類で、花言葉は「再生、新生」を意味し、たくさんの花をつける特徴があります。ポポラスの花のように、たくさんの花が咲く明るく楽しい場所をつくりたいという職員の仕事がこもった愛称となっております。



10月1日 西病4階に介護医療院 ぽぽらす オープン

西区病院4階で8月から改修工事を進めていた、介護医療院(愛称 ぽぽらす)が完成しました。10月1日10時から開院セレモニーが行われ、塩川哲男施設長の挨拶がありました。続いて、横山博子社員支部長、高野一男友の会会長の祝いの言葉があり、関係者によるテープカットが行われ、開院セレモニーが終了しました。入所定員42名で居住空間にゆとりを持たせた施設で、プライベートにも配慮しています。入浴も機械浴槽で安全にゆつくりできるような体制が整い介護医療院が開始しました。

身近な健康

インフルエンザに備えよう

西区病院 副院長 早尾 博志



備えあれば憂いなし
寒さが厳しくなりインフルエンザウィルスのシーズンがやってきました。例年とは違い今年には新型コロナウイルスの恐怖のもと、更にインフルエンザの心配もなければならぬかと思うと気が重くなる方も多いかもしれません。「備えあれば患いなし」(憂いという字は患うとも書く)不安に煽られるのではなく、今やれることをやってウイルスに対峙するしかありません。

生活上の感染予防

まずやれることは生活上の感染予防です。我々は「コロナ禍」において、マスク、手指衛生に加え、蜜を避ける・ソーシャルディスタンスなど生活上感染予防の重要性を再認識し実践してきました。

ワクチン予防接種

現時点のインフルエンザ罹患率は例年に比べ極めて低いと報道されています。コロナ予防効果とも言えるものでこれを続けることが重要です。

肺炎にも注意

ウイルス感染に引き続き起こる細菌性肺炎で亡くなる方も多く、最も多い原因菌は「肺炎球菌」です。肺炎重症化を防ぐ肺炎球菌ワクチンも同時に奨めております。

対処療法

実際、高熱が出て受診しても新

塩川哲男施設長の挨拶



勤医協札幌西区病院は34年前の1986年5月に開院。私は2007年4月からこの病院に勤務しておりますので13年半が経ったことになりました。2008年2月、それまで休止していた4階を医療養病棟として再開し、たくさんの患者さんに入院していただきました。私は当院の2階から5階まで全部の病棟を経験してまいりましたが、療養病棟が自分でも肌に合っていると思います。しかし、諸般の情勢を鑑みて、10月からこの4階病棟は介護医療院という新しい施設に生まれ変わりました。これからは病気をかかえながら在宅で生活することが困難な方を医療と介護の両面から支える施設として運用してまいります。病院の中にあるという利点を生かしつつ、入居者さんの毎日の生活を豊かにすることを追及していきます。これまで通り無差別平等の立場を堅持し、「最期まで勤医協で」というご希望にも応えられるような介護医療院にしていきたいと考えております。スタッフ全員、初めての施設で、不慣れなことも多々あるかとは思いますが、チーム「ぽぽらす」としてがんばってまいりますので、どうかよろしくお願いたします。

健診専用診療日

第4週木曜日の午後

健診専用ですので待たずに受けられます。事前の予約をお願いします。ひだまりクリニック 電話 011-671-5115

「友の会活動強化月間」コロナ禍で見えたもの

9月から行われている友の会活動強化月間はコロナ禍の中で活動内容が大きく変わった取り組みとなりました。例年の1000件を超える訪問活動が出来なくなり、電話による繋がり活動を友の会の班、病院や各事業所で積極的に行いました。その中でコロナ禍による不安や困難な事例を多く聞くことになりました。

「外に出られず、体調悪化」老人福祉センターに通っていたが、外出自粛で認知機能の低下、精神的にも不安定になっている、介護認定を要請している。

スポーツジムに通っていたが、ジムが閉鎖、家に閉じこもり気持ちは落ちこんでいる。介護認定を申請しデイサービスの利用を勧める。

友の会のお食事に参加していたが、中止となったためほとんど外に出なくなり、家で転倒し顔にアザを作っていた。

お食事に参加していたが、ここ数ヶ月で認知症が進みもう参加出来なくなりましたと娘さんが寂しそうです。

一日誰とも話すことがなく、こんな電話をもらうと元気でいられます。

夫が施設に入所、家に居た時は手がかかって大変だったがコロナで会いに行けず寂しい。

「暮らしが大変になった」

契約社員で働いているが、店の売り上げが減り11月まで仕事に行けなくなった。収入が減り、再契約できるか不安。

無料低額診療を利用。少ない年金のためアルバイトで生計を維持している。

年金だけでは生活が苦しく、子供からも援助できないと言われた。生活保護の申請を勧めた。

地域の繋がりを強め寄り添う活動を進め「だれでもが安心して住みつけられる街づくりを」目指します。

料が大きく減った。転職を考えているが雇用があるか不安。



「友の会活動強化月間」中の電話での繋がり活動

シリーズ このひと

稲積班 伊東 智代子さん



伊東智代子さんは、新発寒教会のお食事会「サロンひだまり」の立ち上げからの世話人さんで、食事作りを担当しています。以前「ていねやま」でも紹介しましたが、器用な方で手作りの松ぼっくりツリーを「ひだまり」のクリスマス会で参加者全員にプレゼントしてくれています。何時間でも

みんなが働く事が楽しい

集中して作業ができると思います。いまコロナ禍の中で3月からマスク作りを始め、100枚以上作り回りの皆さんに配って喜ばれています。

伊東さんは日高の厚賀の生まれで、戦争中米軍の艦砲射撃の記憶があると言います。江差に移り住み、20歳で札幌に出て工場の寮に住み込み働いで働くなど、本当に働き

づめの青春時代を過ごしました。「まじめに働けばどうにかなる」が伊東さんの信条です。口数は少なくおとなしく見えますが真の強い性格は男勝りで、本人も「生まれ変わったら男が良い」とい

「ふまねっと」サークルのみなさまへ
お元気でお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染予防のために、みんなの大好きな「ふまねっと」サークルもお休みを余儀なくされ、現在に至っています。まだまだ、新型コロナウイルスは終息されていません。なにせ「蜜」が大好きな新型コロナウイルスには「ふまねっと」は大敵です。どんなに対策をとっていても感染してしまう可能性は誰にでもあることを忘れてはならないと思います。また元気に楽しく大きな声で笑う活動ができることを願い、今しばらく「ふまねっと」サークル活動はお休みします。また元気に会いしましょう。

サポーター一同



手作りのマスク

います。2000年今の市営住宅に移り、そこで友の会の柳田さんと知り合い2007年に入会し色々な活動にも参加するようになりました。今、お食事が休止になっており、早く「ひだまり」が再開され、みんなで食事作りが出来る日を待っているところです。

無料低額診療 制度のご案内

例えば次のような場合、制度を利用できる可能性があります。

- ・少ない年金で生活が苦しく医療費にお金を回せない。
- ・持ち家だけ収入が低すぎて病院に行けない。
- ・失業して収入がないが、病院にかかりたい。
- ・就学支援を受けている。高校生等奨学給付金を受けている。

医療費でお困りの方はお気軽にご相談ください。
西区病院 医療福祉課 電話 代表 663-5711

こんな言・あんな事 (第4回)

賢かった。2歳頃は泣いて要求を通していました。4歳の今は、要求の幅も広がり気に入らないことがあると文句を言い対等に喧嘩になります。女の子ですから口は達者で、油断できません。気力と体力を維持して、まだまだ孫には負けられません。可愛い孫は私の元気のもとです。



友の会電話・FAX
666-2877

バアバ奮闘記 稲積班 T・Y

4年前、娘が職場復帰。孫の面倒を見ることになり、保育園への送迎、食事と入浴が私の仕事になりました。朝、マンションに出勤、管理人さんとおはようハイタッチ、元気に保育園に向かいます。帰りは保育園での出来事を色々話してくれます。帰りの道のコンビニの前でオシッコと言い、トイレを借りお菓子等を買います。これが作戦だったのです。敵は